



#2! ~生徒・保護者・地域・職員~

長崎市立三和中学校
令和6年度学校だより No.5
令和6年7月3日(水)
文責 校長 赤塚竜造

1945年3月～8月にかけて、九州上空ではB29(戦略爆撃機)を見ない日がないといわれていました。6月に入ると、福岡大空襲(19日)、沖縄戦(23日)、佐世保大空襲(29日)と立て続けに、そして広島(8・6)・長崎(8・9)への原爆投下…。

戦争ほど悲惨なものはない、戦争ほど残酷なものはない…。

本校でも戦争や被爆体験の継承、平和の意識を深めるため、学びを続けています。

また、現在学校では原爆被爆パネル展(4日まで)を開催中です。

“命 どう 宝” (命こそ宝)

6月21日(金)の給食メニューです。沖縄料理でした。

給食を提供してくださる給食センター調理員の皆様に感謝!



シークワサー
ゼリー

ゴーヤ
チャンプルー

牛乳

ごはん

もずくスープ

6月23日は、「沖縄慰霊の日」でした。昭和20年の沖縄戦では県民の4人に1人が犠牲に。この日は、組織的な戦闘が終わった日とされています。

毎日提供される給食のメニューは、一人ひとりの健康を考えて作られています。

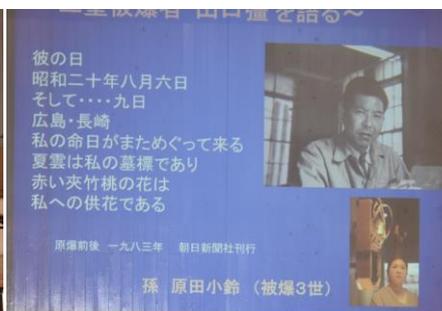
ただ、「愛情」+「何かしらの意味を込めて」作られていることもお知りおきいただければと思います紹介させていただきました。

「わんが さんねー たーがすが」(沖縄の言葉) → 「私がやらなければだれがやるのか」

これから平和な国をつくるのはいったい誰なのか。自分そして他者、ともに命が輝く社会のために、自ら何かしらできることに「命」を燃やしていきたいものです。

被爆体験講話

6月26日(水)講師をお招きし被爆体験のお話をさせていただきました。



被爆体験の講話者は、原田小鈴(はらだこすず)様でした。原田様は、長崎市生まれの被爆三世。祖父が被爆者、母は被爆者二世。息子は四世。2011年より、祖父の被爆体験と非核平和の継承のため、紙芝居やドキュメンタリー映像、著作の朗読を使って国内外で次世代に語り継ぐ活動をされています。祖父のお名前は、山口 彊(やまぐちつとむ)様。原田様はお孫様にあたります。

山口彊様は、二重被爆者。二重とは、広島・長崎の2都市で被爆。2010年1月に93歳でご逝去。29歳の時、8月6日広島で通勤中に被爆。9日長崎・三菱造船所(爆心地から3.5km)で被爆。山口様が布巻におられたご縁で、原田様の三中来校希望も叶い、大変喜ばれていました。

講話後、多数の生徒が手を挙げ質問し、活気ある質問会となり、被爆体験講話を締めくくりました。